

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	滑石地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 橋本 孝 (滑石漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	滑石漁業協同組合、玉名市
オブザーバー	熊本県北広域本部水産課、熊本県漁業協同連合会

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	玉名市滑石地域 海苔養殖業者8名、採介漁業者40名 延べ48名
-----------------------	------------------------------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

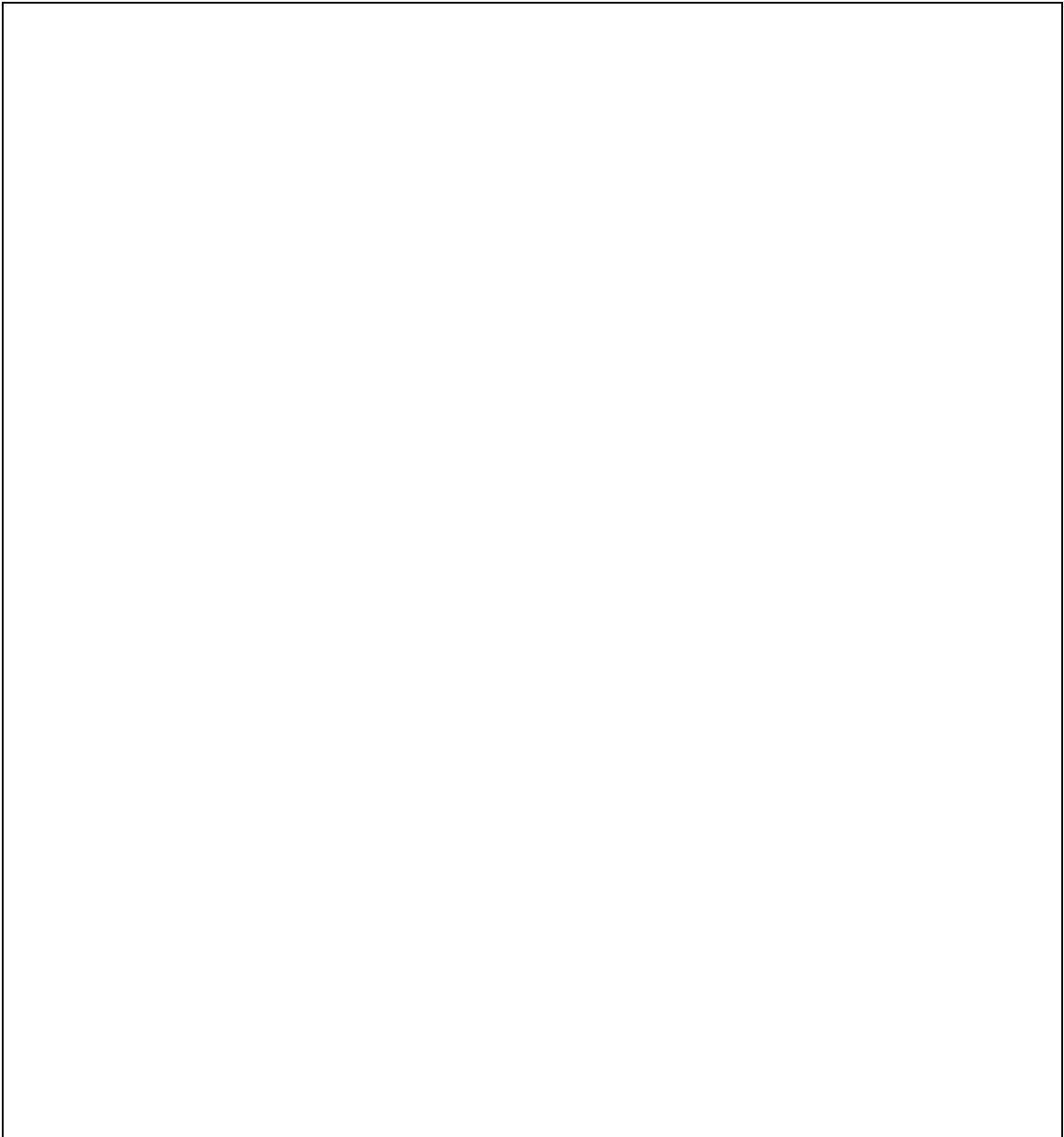
<p>当地域は、熊本県北西部に位置する玉名市南西の有明海沿岸に位置している。菊池川の河口に漁場を持ち、海苔養殖業、アサリ採貝業を基幹漁業とした地域である。</p> <p>近年、海苔養殖業については、養殖管理の徹底や、業界での需要増等による単価の向上で水揚げ額が向上しているが、栄養塩が低下することによる色落ちが発生すれば、品質が低下し、水揚げの減少や単価が下落するため、漁家経営は不安定な状況である。</p> <p>アサリについては、資源回復のための取組みにより、稚貝の発生が確認され、資源回復の兆しが見られるが、成貝として出荷できるサイズまで成長せずいなくなるため、水揚げが無い状態が長く続いている。</p> <p>また、漁業者の高齢化が進んでおり、後継者や新規就業者が減少しており、漁業就業者の確保が課題となっている。</p>

(2) その他の関連する現状等

<p>大雨災害等の発生により、ゴミ、流木、土砂等が河川から流れ込み、漁場環境が悪化してきている。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁獲物、漁業者の減少等により疲弊している当地域の漁村活性化に向け関係者が一体となって以下の内容に取り組む。

【海苔養殖】

- ・高性能刈取船の導入による生産効率の向上（燃油消費量の削減）
- ・適正な養殖管理等、製造機器の清掃、点検による品質向上（本等級割合の向上）
- ・異物の混入をなくすため、製造機器の清掃、点検の徹底による返品海苔の防止
- ・海苔加工場施設の改善、海苔検査体制の共同化による漁業コスト削減

【アサリ採貝業】

- ・アサリ資源管理計画に基づき、アサリ資源の回復のための取組み推進。

【共通方針】

- ・減速航行等の省燃油活動や省エネ機関導入などによる燃油使用量の削減。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・熊本県漁業調整規則や熊本県有明海区漁業調整委員会指示を遵守する。
- ・アサリ資源管理計画、区画漁業権行使規則、共同漁業権行使規則を遵守する。
- ・海苔養殖については、熊本県海苔養殖生産安定対策推進協議会の決定事項を遵守し、海苔生産者が一丸となって生産向上のための対策に取り組む。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度）（基準年所得より0.3%の所得向上）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【海苔養殖業】 海苔養殖業者は以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び漁連から提供される水温状況等により、高水温と淡水で良く生育する黒磯海苔と、低水温で良く生育する在来海苔について、漁場毎に異なる海況を踏まえ海苔網を張り込む。 ・支柱漁場では、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底するとともに、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合を把握すると同時に、病気の発生状況を早期に発見することにより、品質低下を防ぐ。 ・安全、安心な海苔作りを行うために異物の混入防止策として製造機器の清掃、点検を徹底して行い、買付商社の信頼を向上させ単価の向上につなげる。 ・取引商社と海苔生産者との協議を行いニーズに合った製品、本等級製品作りを促進し、平均単価の向上を図る。 <p>【アサリ採貝漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業者は漁協とともに、海底耕耘や漂着ゴミの収集等、漁場の保全活動（食害生物の除去、ホトトギス貝の除去、堆積物の除去）に取り組むことで、漁場の生産力を向上させ資源量の増大を図る。 ・着底稚貝を生残させるために、各種試験を実施し、減耗要因について検討する。 ・稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシェルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで効果的なアサリの資源回復を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者が減速航行と定期的な船底、プロペラ等清掃を行い燃油消費量削減に努める。 ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・海苔養殖業者は、海苔加工における漁業コスト削減のために、個々の海苔加工工場を断熱材の利用や換気システムの向上等により環境条件を改善することにより、乾燥機の燃油消費量を削減する。 ・新たに海苔養殖業者1名が全自動海苔乾燥機を省エネ型機に更新する事で重油使用量の削減を図る。 ・新たに海苔養殖業者1名が高性能刈取船等を導入し生産効率を高めることにより燃油消費量の削減を図る。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）

2年目（令和3年度）（基準年所得より3.5%の所得向上）

漁業収入向上のための取組	<p>【海苔養殖業】</p> <p>海苔養殖業者は以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び漁連から提供される水温状況等により、高水温と淡水で良く生育する黒磯海苔と低水温で良く生育する在来海苔について、漁場毎に異なる海況を踏まえ海苔網を張り込む。 ・支柱漁場では、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底するとともに、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合を把握すると同時に、病気の発生状況を早期に発見することにより、品質低下を防ぐ。 ・安全、安心な海苔作りを行うために異物の混入防止策として製造機器の清掃、点検を徹底して行い、買付商社の信頼を向上させ単価の向上につなげる。 ・取引商社と海苔生産者との協議を行いニーズに合った製品、本等級製品作りを促進し、平均単価の向上を図る。 <p>【アサリ採貝漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業者は漁協とともに、海底耕耘や漂着ゴミの収集等、漁場の保全活動（食害生物の除去、ホトトギス貝の除去、堆積物の除去）に取り組むことで、漁場の生産力を向上させ資源量の増大を図る。 ・着底稚貝を生残させるために、各種試験を実施し、減耗要因について検討する。 ・稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシェルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで効果的なアサリの資源回復を図る。
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を更に推進し、全員加入を達成する。 ・海苔養殖業者は、海苔加工における漁業コスト削減のために、個々の海苔加工場を断熱材の利用や換気システムの向上等により環境条件を改善することにより、乾燥機の燃油消費量を削減する。 ・新たに海苔養殖業者1名が全自動海苔乾燥機を省エネ型機に更新する事で重油使用量の削減を図る。 ・全漁業者が、減速航行と定期的な船底、プロペラ等の清掃を行い、燃油消費量の削減に努める。 ・新たに海苔養殖業者1名が高性能刈取船等を導入し生産効率を高めることにより燃油消費量の削減を図る。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

3年目（令和4年度）（基準年所得より6.8%の所得向上）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【海苔養殖業】</p> <p>海苔養殖業者は以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び漁連から提供される水温状況等により、高水温と淡水で良く生育する黒磯海苔と低水温で良く生育する在来海苔について、漁場毎に異なる海況を踏まえ海苔網を張り込む。 ・支柱漁場では、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底するとともに、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合を把握すると同時に、病気の発生状況を早期に発見することにより、品質低下を防ぐ。 ・安全、安心な海苔作りを行うために異物の混入防止策として製造機器の清掃、点検を徹底して行い、買付商社の信頼を向上させ単価の向上につなげる。 ・取引商社と海苔生産者との協議を行いニーズに合った製品、本等級製品作りを促進し、平均単価の向上を図る。 <p>【アサリ採貝漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業者は漁協とともに、海底耕耘や漂着ゴミの収集等、漁場の保全活動（食害生物の除去、ホトトギス貝の除去、堆積物の除去）に取り組むことで、漁場の生産力を向上させ資源量の増大を図る。 ・着底稚貝を生残させるために、各種試験を実施し、減耗要因について検討する。 ・稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシエルを集中的に設置する箇所の
---------------------	---

	増設を行うことで効果的なアサリの資源回復を図る。
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃費に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 ・海苔養殖業者は、海苔加工における漁業コスト削減のために、個々の海苔加工場を断熱材の利用や換気システムの向上等により加工場の環境条件を改善することにより、乾燥機の燃油消費量を削減する。 ・新たに海苔養殖業者1名が全自動海苔乾燥機を省エネ型機に更新する事で重油使用量の削減を図る。 ・新たに海苔養殖業者1名が高性能刈取船等を導入し生産効率を高めることにより燃油消費量の削減を図る。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）

4年目（令和5年度）（基準年所得より10.5%の所得向上）

漁業収入向上のための取組	<p>【海苔養殖業】</p> <p>海苔養殖業者は以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び漁連から提供される水温状況等により、高水温と淡水で良く生育する黒磯海苔と低水温で良く生育する在来海苔について、漁場毎に異なる海況を踏まえ海苔網を張り込む。 ・支柱漁場では、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底するとともに、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合を把握すると同時に、病気の発生状況を早期に発見することにより、品質低下を防ぐ。 ・安全、安心な海苔作りを行うために異物の混入防止策として製造機器の清掃、点検を徹底して行い、買付商社の信頼を向上させ単価の向上につなげる。 ・取引商社と海苔生産者との協議を行いニーズに合った製品、本等級製品作りを促進し、平均単価の向上を図る <p>【アサリ採貝漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業者は漁協とともに、海底耕耘や漂着ゴミの収集等、漁場の保全活動（食害生物の除去、ホトトギス貝の除去、堆積物の除去）に取り組むことで、漁場の生産力を向上させ資源量の増大を図る。 ・採貝漁業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画（母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕
--------------	--

	<p>転による底質改善、採捕規格、採捕数の制限)に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシェルを集中的に設置する箇所の増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効な減耗対策を本格実施する。
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに海苔養殖業者1名が全自動海苔乾燥機を省エネ型機に更新する事で重油使用量の削減を図る。 ・全漁業者が、減速航行と定期的な船底、プロペラ等の清掃を行い、燃油消費量の削減に努める。 ・新たに海苔養殖業者1名が高性能刈取船等を導入し生産効率を高めることにより燃油消費量の削減を図る。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国)、漁業経営セーフティネット構築事業(国)、水産多面的機能発揮対策事業(国)、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国)

5年目(令和6年度)(基準年所得より14.1%の所得向上)

漁業収入向上のための取組	<p>【海苔養殖業】</p> <p>海苔養殖業者は以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県及び漁連から提供される水温状況等により、高水温と淡水で良く生育する黒磯海苔と低水温で良く生育する在来海苔について、漁場毎に異なる海況を踏まえ海苔網を張り込む。 ・安全、安心な海苔作りを行うために異物の混入防止策として製造機器の清掃、点検を徹底して行い、買付商社の信頼を向上させ単価の向上につなげる。 ・支柱漁場では、潮位にあわせた適切な網の高さ管理を徹底するとともに、定期的に葉体のサンプルを採取し、葉体のチェックを行うことで、生長具合を把握すると同時に、病気の発生状況を早期に発見することにより、品質低下を防ぐ。 ・取引商社と海苔生産者との協議を行いニーズに合った製品、本等級製品作りを促進し、平均単価の向上を図る。 <p>【アサリ採貝漁業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業者は漁協とともに、海底耕耘や漂着ゴミの収集等、漁場の保全活動(食害生物の除去、ホトトギス貝の除去、堆積物の除去)に取り組むことで、漁場の生産力を向上させ資源量の増大を図る。 ・採貝漁業者は漁協とともに、アサリ資源管理計画(母貝、稚貝の撒き付け、囲い網によるアサリ保護区の包囲、有害生物の駆除、漁場調査、漁場耕
--------------	---

	<p>転による底質改善、採捕規格、採捕数の制限)に基づき、アサリ資源の回復に取り組む。また、稚貝の定着率の高い漁場を見極め、ケアシェルを集中的に設置する箇所を増設を行うことで、効果的なアサリの資源回復を図る。</p> <p>・有効な減耗対策を本格実施する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>・全漁業者は、減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃費に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。</p>
活用する支援措置等	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）、漁業経営セーフティネット構築事業（国）、水産多面的機能発揮対策事業（国）、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

(5) 関係機関との連携

取り組みの効果が十分に発揮されるよう行政（熊本県、玉名市）、系統団体（熊本県漁業協同組合連合会、熊本県漁業共済組合等）との連携を強固にするとともに県内外のアサリ商社、海苔商社についても連携を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得（地区総額）の向上 10%以上	基準年	平成30年度： 漁業所得 円
	目標年	令和6年度： 漁業所得 円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

別紙のとおり

(3) 所得目標以外の成果目標

海苔本等級構成比の向上	基準年	平成30年度： 24%
	目標年	令和6年度： 32%

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

品質向上の取組により本等級枚数の割合を5年間で8ポイント増加させる

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

競争力強化型機器等 導入緊急対策事業	省エネ機関、全自動海苔乾燥機を導入することにより、漁業支出の低減を図る
水産業競争力強化漁 船導入緊急支援事業	高性能刈取船等の導入により、生産効率を高めることにより生産量の増加を図る。
漁業経営セーフティ ネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備える
水産多面的機能発揮 対策事業	干潟等の保全活動による資源量の増大や、魚食普及、食育活動による水産物の増大を図る
水産物供給基盤機能 保全事業(冠水対策事 業)	漁港施設の維持、保全及び運営（漁業者の利便性の向上）